

兵庫陶芸美術館 特別展
フィンランド・グラスアートー輝きと彩りのモダンデザイナー
2024年3月16日(土)～5月26日(日)



兵庫陶芸美術館 学芸員
マルテル坂本牧子

自然のぬくもりを感じさせながら、機能性と美しさを兼ね備えた北欧フィンランドのデザイン。中でもガラスは、フィンランドがデザイン先進国として国際的な名声を獲得する、その象徴的な存在でした。本展は、1930年代から現代まで、フィンランドを代表するデザイナーや作家たちが、「アートグラス」あるいは「ユニークピース（1点物）」と銘打って制作した芸術性の高いガラス作品に焦点を当て、フィンランド・グラスアートの系譜をたどろうとするものです。

フィンランドで本格的にガラス製造が始まるのは18世紀半ばのことですが、ガラス製作所でデザイナーが起用され、フィンランドらしさが芽生えてくるのは1930年代。フィンランドでモダニズムを推し進め、世界的な建築家として知られるアルヴァ・アアルト（1898～1976）、妻のアイノ（1894～1949）らが生み出した独特の有機的なフォルムが新鮮な衝撃を与え、国際的な評価が高まりました。

しかし、その名声を決定づけたのは、戦後の1950年代。カイ・フランク（1911～1989）、タピオ・ヴィルッカラ（1915～1985）、ティモ・サルパネヴァ（1926～2006）など、卓越した創造性を持つデザイナーたちが次々とガラスのデザインを手がけ、熟練の職人たちとの協働を通じて、フィンランドの自然や風土を反映した独創的な造形を打ち出し、ガラスのイメージを一新していきました。このような革新的なガラスの造形は、作家の創造性と熟練の職人の技術なくしては生まれ得ないものでした。

そして今日、自ら工房を持ち、技術も身につけた個人作家たちが活躍し、各々が素材と向き合い、探究し、また新たな創造の可能性を広げています。本展を展覧することによって、時代を超えて、フィンランドの表現者たちが切り開いたガラスの魅力、そこに込められた思いを是非、体感いただければと思います。



アルヴァ & アイノ・アアルト
《アアルト・フラワー [3031, 3032, 3033, 3034]》
1939年 カルフラ/イッタラ・ガラス製作所



カイ・フランク 《アートグラス、ユニークピース》
1970年代前半 ニュータヤルヴィ・ガラス製作所



ティモ・サルパネヴァ 《カヤック [3867]》
1954年 イッタラ・ガラス製作所

すべてコレクション・カッコネン、photo：Rauno Träskelin